

(様式6-1)

藤生 大我 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 A Randomized Controlled Trail of the “Positive Diary” Intervention for Family Caregivers of People with Dementia.
(認知症の人を介護する家族が「ポジティブ日記」をつけることの効果；ランダム化並行群間比較試験)
Perspectives in Psychiatric Care (in press)
Taiga Fuju, Tetsuya Yamagami, Haruyasu Yamaguchi, Tsuneo Yamazaki

論文の要旨及び判定理由

認知症家族介護者はストレスを感じる事が多く、健康リスクも高いため、認知症の人と同様に適切な支援が必要である。各種研修や教育プログラムなどの支援が有用であるが、利用のしやすさや継続性などに問題があり、簡便に家族介護者が一人でも実施できる支援方法の開発が必要である。本研究は、認知症家族介護者26名を、介入群と対照群に無作為に割り付け、ポジティブ心理学を応用して開発した、1日にあった良いことを3つとその理由及び自分を褒める言葉を書く日記（ポジティブ日記）の効果を検証した。介入期間は4週間で、介入群は毎日のポジティブ日記の記載、対照群はその日の3食の食事の記録を行った。主要アウトカム評価項目は、認知症の行動・心理症状 (behavioral and psychological symptoms of dementia: BPSD) の重症度を示すNeuropsychiatric Inventory Questionnaire (NPI-Q)、BPSDの症状に付随した介護負担感の尺度であるNPI-D (Caregiver Distress Scale) および抑うつ症状の自己評価尺度であるCenter for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) であり、副次アウトカム評価項目は、精神的健康状態表 (World Health Organization-Five Well-Being Index: WHO-5)、Zarit介護負担尺度短縮版 (Short version of the Zarit Burden Interview: ZBI_8)、介護充実感尺度 (Caregiving Gratification Scale: CGS) および認知症介護肯定感尺度21項目版 (Dementia Caregiver Positive Feelings Scale 21-item version: DCPFS-21) であった。加えて介入群の介入後にポジティブ日記実施の感想や介護への影響等を聴取し、さらに、ポジティブ日記の記述内容をカテゴリに分類した。CES-Dには有意な相互作用を認め、介入群で抑うつ症状の軽減を認めた。また、NPI-Q、WHO-5、ZBI_8、CGSは、対照群に比して介入群で有意な改善を認めた。また、ポジティブ日記の実施に対して肯定的な感想が多く、ポジティブ日記の記述内容のカテゴリの記載数において、「日々の努力へのねぎらい」のカテゴリで、WHO-5およびZBI_8の変化量と有意な相関を認めた。本研究は認知症家族介護者のセルフケアツールとして、ポジティブ日記の有用性を検証した研究であり、リハビリテーション学分野での重要な研究と認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(令和4年2月7日)

審査委員

主査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 白田 滋 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 菊地 千一郎 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 坂本 雅昭 印

参考論文

1. Development of the Dementia Caregiver Positive Feeling Scale 21-item version (DCPFS-21) in Japan to recognize positive feelings about caregiving for people with dementia.
(認知症家族介護の肯定的な側面の気づきに資する認知症介護肯定感尺度21項目版の開発)
Psychogeriatrics 21: 650-658, 2021.
Fuju T, Yamagami T, Yamaguchi H, Yamazaki T
2. 認知症家族介護者がつけたポジティブ日記の内容分析 ポジティブな気づきの促進に向けて
日本認知症ケア学会誌 17: 735-741, 2019s
藤生大我、山上徹也、山口晴保
3. 認知症家族介護者がポジティブ日記をつけることの効果
日本認知症ケア学会誌 16: 779-790, 2018
藤生大我、山上徹也、山口晴保
4. 認知症高齢者を介護する家族が認識する介護肯定感の構成因子の検討：認知症介護肯定感尺度開発へ向けた予備的研究
健康福祉研究：高崎健康福祉大学総合福祉研究所紀要 12: 1-14, 2015
藤生大我、田部井康夫、島村まつ代、山上徹也